

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和4年度第3回西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会
開催日時	令和5年1月30日(月) 午後3時～5時
開催場所	市役所 中会議室
出席委員の氏名又は人数（敬称略）	瀧川光治、鈴木正敏、松尾寛子（リモート） 閑念勝代、高田祐久子
欠席委員の氏名又は人数（敬称略）	
出席職員の職・氏名又は人数	教育長 笹倉邦好 教育創造部長 足立英則 学校教育課主幹兼教育研究室室長 衣川正昭 幼保連携課長兼幼児教育センター長 長井恵美 幼保連携課主査 山下秀華 幼保連携課（幼児教育センター）藤原幸恵 幼保連携課（幼児教育センター）前田玲佳 幼保連携課（幼児教育センター）小東さゆり
公開・非公開の別	非公開
非公開の理由	個人情報に配慮するため
協議又は協議事項	(1) 第2回視察訪問について (2) 今年度事業の評価報告について (3) その他
会議の記録（概要）	
発言者	内 容
事務局	1 開会
教育長	2 あいさつ
事務局	(資料確認) ここからの進行は、委員長にお願いする。
委員長	3 (1) 第2回視察訪問について
事務局	事務局説明

各委員	<p>資料1 「令和4年度自己評価資料（各園次年度の方策まとめ）」 各園の訪問時の写真をパワーポイントで共有</p> <p>～各園の取組状況、感想・意見 保育内容～</p> <p>園①</p> <p>3歳児の乗り物ごっこ遊びについて、『ごっこ』をどう捉えるか、幼児期ならではの遊びの特性や発達段階を捉えることも含め、3歳から4歳へ移行時期の遊びのあり方について話をした。</p> <p>4・5歳児は、園の前にある山(前山)での保育活動だった。4歳児のピタゴラスイッチをイメージしたサーキット遊びでは、身体を思う存分に使って遊ぶ中で、10の姿『健康な心の体』を中心に、子どもたちが思い思いに主体性を発揮しながら遊んでいた。</p> <p>5歳児は、子どもたちが協同的な知恵を働かせながら遊びの相談をするとともに、担任保育者が写真を使いながら振り返りをしていた。幼児期から振り返りができる力が育ってきているので、小学校1年生の授業でも振り返りを活用できるヒント、手がかりになることを取り込まれていると思った。</p> <p>園②</p> <p>0歳児は、個々の興味に応じながら丁寧な保育をされていた。</p> <p>2・3歳児は、子どもたちの描いた絵画から、子どもの発達と描画での発達を捉え、月齢の幅や発達の差があることを伝えた。一人一人の個人差を配慮した上で、子ども達への丁寧なかかわりが必要で、特に、3歳児(自分の顔の絵)は、一見大人から見るとしっかりと描いているが、実際の子どもの発達段階を考えた時には、子どもに無理させている状況だったので、そのことも伝えた。</p> <p>職員数が多いことの課題として、職員間の暗黙のルールが増えていることがあげられる。例えば、乳児が園庭に出ている時は幼児はブランコをしてはいけない等、安全面を考えたルールなのだが、園児にとって見えないルールを保育者が判断して注意しなければならない。職員によってルールが変わるとい状況にもなりかねないので、職員も園児も分かる共通ルールとして明確化(見える化)できることを望む。</p> <p>保育は、数年前と比べると安定し、若い保育者も多いが力もついてきている。一人一人の質の向上とともに、園全体として、子どもの姿を中心に共通理解しながら進めていくような体制づくりが、</p>
-----	--

今後ますます必要と考える。

園③

人とのかかわりについての質問が多く、人間関係を大切にされているのが分かる。小学校では、教科教育＋学級経営として人間関係を育てているが、幼児期は、5領域『人間関係』が位置づけられているが故、保育者が子ども同士のかかわり方に悩むのではないか。

1歳児、転がし遊びのコースやままごとセットが1つだったので、園児が密集して遊んでいた。一人一人が存分に遊ぶことを考えると、分散できるよう数を増やす、コースの高さや転がす素材を変える等が必要であると話した。

4歳児『ブロックが好きな男児』の相談では、個としての遊びの充実を集団へつなげる視点について話をした。ブロックは、基本的に何かを自分でイメージしながら作る遊びなので、それを大切にしながら、4歳児として保育者がクラス全体で共通イメージをもって遊べるような仕掛けやつながり合える展開を考えていけるとよい。

5歳児では、主体性と保育者の役割について話をした。保育者が子どもの主体性を大事と思うあまりに、見守ることに徹してしまい、適切な援助や方向づけができないこともある。バランスが難しいところだが、主体性を、保育者と子どもと一緒に二人三脚していくイメージで考えるとよいと伝えた。また、5歳児の後半、10の姿【思考力の芽生え】の試す、実験する、作って遊ぶ、工夫や試行錯誤をする等の活動を、もう少し取り入れてはと話した。

園④

0・1歳児は、前期訪問から保育環境の配置が随分変わっていた。食事・排泄・着替えのスペース等の動線がうまく区切られ、生活できるようになっていた。遊びスペースも動ける場所とままごとコーナーの静かな雰囲気等の中、子ども達は自由に遊んでいた。

2歳児は、ダイナミックで面白かったが、動の遊びが中心だったので、それについての相談と、もう少し保育環境や時間で区切る方がいいというアドバイスをした。

3歳児は元気な学年で、次の活動の切り替えの移動でジャンプしている子がいた。全体的に動き・運動量が足りてない様子だったので、外遊びの時間を確保し、思いきり体を動かし発散できてから、話をする方がいいと助言した。

4歳児は素材、廃材遊びをしていた。この時期、色々な材料、素材に触れ、道具やものを、いっぱい使い、試す経験が大切である。例えば、テープばかりを使うといった無駄遣いの経験がないと、5歳児や小学生で上手な使い方という考えにならない。4歳児は経験を広げる時期であることを念頭においてほしいと伝えた。

5歳児は、気になる子の支援を中心に、その子の良いところをいかに伸ばすかに力を注いでほしいと助言をした。特に周りの子を育てることが今からは大事で、本人が落ち着くことより、周りの子がその子の性格を理解し、クラスみんなでその子を育てる気持ちになってほしいと話した。

園⑤

子ども達に色々な体験をさせたいという思いが強い園で、キノコ栽培や吊るし柿・稲刈り等、おもしろい取組をされていた。園庭の広さに対してスクーターが多く、ぶつかる危険性や片付け方、種類や数の厳選等、必要だと感じた。5歳児保育者の相談でも、子どもが片づけできないとあったので、ロッカーの中身を確認しながら、お道具箱や仕切りの置き方、片付けを促す視覚的配慮等、具体的に助言をした。園児数が多く、限られたスペースの中でハンディがあるが、園全体で検討していくことを望む。

2歳児の保育室では、人形をきれいに並べる、段ボールを使って斜面を作って車を走らせる等、具体的にものを動かし、子どもと遊んで盛り上がる姿を見ながら助言をした。

4歳児、前回の視察訪問で助言したことを受けて、区切りや段ボールを活用して、落ち着いて遊べる場所が確保してあった。素材も整備されていて、子どもたちが自分で素材を選び、ピタゴラスイッチの様に色々と転がして遊びを展開していた。

それぞれの保育者が頑張ろうと思ひ、質問を出されているので、毎回視察訪問を楽しみにしている。今後に期待したい。

園⑥

0歳児は、おもちゃの種類が少し改善され始めているので、更に収納場所と遊び場所を区別すると、子ども達が自分で好きなものを選んで遊べるのではと助言した。

2歳児、給食での箸の使用について。発達段階を考えると3歳児からが望ましい。成長の早い子はいいが、無理をしている子もいる

ので、徐々にスプーンからお箸に移行するというレベルで、慌てないようにと伝えた。

3歳児は既成のおもちゃが多く、4・5歳児も、並べる、ブロック系、カプラを積む等、同様だった。子どもと一緒に作り、興味や関心に合わせて遊ぶ、子どもたちが考え自分たちでやってみるという活動がもう少し必要だと感じた。3～5歳児が同じフロアにいることを生かし、作って遊ぶ活動を5歳児から始めて3・4歳児に教える、5歳児が散歩のコースを考え連れていく、買い物体験で3・4歳児のために何かを買ってくる等、相手のことを考える取組が計画できると、自立する子につながるのではないかと助言した。

園長が自園の取組について思いを語る姿を見て、保育者の気持ちが少しずつ上がってきていると感じた。これまでの保育の流れからすると、保育者主導だったが、今後の変化に期待する。

園⑦

全体的に、おもちゃやものの配置、保育者の表情やかかわり方も含めて、子ども達の育ちによりよい環境が整っていた。子どもの発達を考えた適切なおもちゃを、ユニークな発想で作ることができるのが、この園の強みである。

特に、5歳児は子ども達の一人一人が楽しそうに活動していた。保育者が子どもたちの活動に思いや願いをもち保育しているので、一人一人が生き生きと楽しめているのではないか。

ものの配置や向きを変えたり、子ども達の様子を捉えたりしながら遊びに取り組むと、もっと良くなりそうな学年もあり、話し合いの方法や時間が長いクラスについては、遊びを中心とした活動にしていくことも話した。

子ども達の見線の高さにあるものや掲示物について、子どもと大人(保育者)に必要な情報を分ける必要があり、園児の話し合いや1日の流れの掲示にも使用しているホワイトボードに、どれが子どもにとって必要な情報なのかを考えて配置するといいと助言した。

園⑧

全体的には、保育者が同じ方向を向いて保育を取り組もうとしている姿が特徴的な園だ。この園の強みは、保育者の団結力である。

子どもたちの発達の状況を捉えて、おもちゃが適切に準備されている。配置を工夫したらもっと良くなるのではと思うクラスがあっ

たが、先生方の団結力があるので試行錯誤しながら取り組んでいかれることと思う。

2歳児は、保育者が穏やかなかわり方や保育がなされていた。子ども達がしつとりと保育者の話を聞いていた。活発な子どもが多いが、前期訪問で助言した内容を取り入れ、視覚優位の子ども達の特徴を生かした保育だった。

クラス運営の難しさ、当日の子どもたちの状況も加味した上で、あえて言うなら、子どもへのかかわりの中で、穏やかにかわってほしいと感じた保育者がいたのが、今後の課題である。

園⑨

保育室の使い方が難しい園で、毎年苦慮されている。訪問の度に物の配置が変わっている保育室もあり、子ども達にとってより良い環境を目指し、ブラッシュアップされている。

0・1歳児保育室は、前期訪問でデットゾーンだったベビーベットのスペースが、子ども達が遊ぶままごと・お家コーナーになっていた。暗い場所がなくなり、安全に遊び込める工夫がなされていた。

2歳児保育室では、真ん中にロッカーがあり、その奥でままごと遊びをしていた。密集した空間で遊んでいたのも、ロッカーを少し動かす提案をすると、保育者がその場でロッカー移動をされた。フットワークの軽い保育者が多く、すぐに行動できるところが、園として集団としての強みだと感じた。

手作りおもちゃを遊びに活用しにくいクラスには、実際におもちゃを取り出し、子どもと遊びながら助言した。保育者の得手不得手もあるが、手作り・既成のおもちゃ問わず、保育者が「おもしろい」「楽しめそう」とまず感じて、取り入れることが大事である。

4. 5歳児クラスに関しては、製作コーナーのワゴンの種類や物の整理、子ども達が興味をもって使うために、何をどこに置いたらいいかなどを話した。

～全体を通して～

全般的に子どもも保育者も、保育の質が高まってきている。この視察訪問の取組が始まった頃から比べると、今は平均点的に考えたら、70点80点となっているレベルを更にどう向上していけばいいかという水準になってきている。そういう面でも、この視察訪問の役割は大きいと考える。

5歳児でダイナミックなごっこ遊びや、テーマのある遊びを進めていけるようになるには、1・2歳児のごっこ遊びから、発達について道筋や系統性を合わせながら保育環境や支援を考えていくことが重要である。

どの園も、子どもへのかかわり方とともに、保育室の環境作りを苦労されている。保育室の環境構成は、小学校でいうと教材を用意することと一緒に、教材研究の力をいかに身につけるかが課題である。子どもの発達に応じた支援や、各年齢に適した環境を、西脇市としておおむね発達をpushしえながら、共通カリキュラムと結びつけていく検討も必要である。

～小学校との接続や連携の観点から～

掲示物が工夫され、保育者の色々な思いが詰まった保育室が多い。保育環境は、子ども達への仕掛けがとても重要であり、アフォーダンス理論のような『そうしたくなる』『せざるを得ない』環境にすることで、子ども達が興味をもって動いている姿も見ることができた。

外部講師（イングリッシュタイム）の参観では、子ども達が楽しんで取り組んでいた。その時の保育者の立ち位置や参加の仕方について、深く話がしたかった。

面談の中で、小学校での楽器の持ち方について質問があった。小学校とのつながりを意識されていることはいいが、子どもたちの自由な表現より、正しさにこだわってしまう可能性も考えられる。今後、園と小学校でそういう話ができる機会があれば、保育者の思い込みがなくなり、支援に変化が出てくるのではないかな。

5歳児1年間のカリキュラムマネジメントとして、4月5月から保育者がどんな風に1年間指導計画を考えていくかという視点をもって保育を進めていくと、1年を見通した保育ができるようになっていくであろう。

～特別支援内容～

発達特性があり集団生活での困難さをもつ子が、園から進められて発達検査を受けると『知的には高い数値で問題なし』という結果になることがある。集団活動の中で2次障害を起こしている子、集団での育ちが弱くなっているのも気になっている。

児童発達支援サービス等を併用利用する子どもが増えているた

	<p>め、事業所との連携がますます必要となっている。卒園後を考え、計画的に事業所と園との利用時間配分や活動内容等の検討が必要なケースも複数見られた。早い段階で保護者と一緒に考えていけるよう、園から提案してはどうかという話もした。ただ、その際には、保護者の受け入れ状態や担任保育者との関係性もあるので、担任保育者だけではなく園・市等が、保護者に理解を求める機会を作っていく必要がある。</p> <p>事業所や療育センターとの連携では、保護者の承諾があれば、連絡帳や電話・リモート等利用できる。面談以外のツールを活用し、忙しい中でも連携できる方法を紹介した。</p> <p>重度の知的障害の園児が、行事に参加するための方法について相談を受けた。訪問し助言をした内容をすぐに保育者が試していて、そういう取組を園外に発信することが研修につながると感じた。</p> <p>何年も各園とかかわる中で、保育者の支援方法の思い込みも見られた。例えば、落ち着かない子に対して、まず体を動かして、刺激を入れる支援ばかりがなされていた。以前に助言した内容を素直に受け止められているため、柔軟になりにくい傾向もある。時と場合とその子の実態によって『静』の支援や量の調整も必要であると伝えた。</p>
委員長	資料 2、3 について
事務局	<p>事務局説明</p> <p>資料 2 「各園の報告内容（自己評価 2～9）」</p> <p>資料 3 「視察訪問後アンケート・集計結果」</p> <p>今年度の取り組みと次年度に向けて。</p>
委員	<p>資料 2 に関して、園から初めに自己評価の 2～9 の説明があることで、とてもよく分かった。次年度以降も続けていただきたい。2～9 に対しての委員コメントは、時間が少し足りないかもしれないが、まずこちらが園の取組を知り、それに関するコメントができるころではとても良かったと思う。</p>
委員	<p>リーダー層から説明があることは、非常に大事なことなので継続したい。保育者が頑張ってもなかなかリーダーが変わらないことがあるので、今後もリーダーが話していただければと考える。</p>

委員	<p>園長が自園の保育を語り、どんなことを大事にしているのか等、自己評価の記述で私たちが解釈するだけでなく、説明されたことに意義があった。自分の保育を語る、自園で大事にしていることを語るのは、もともと小中学校であれば校長のマネジメント、学校運営方針でしていくことなのだが、こども園(保育所)文化ではあまり見られない。福祉の視点から子ども達への最善の利益を大事にしてきたが、これからは自分たちがどういう保育を目指すのか、どういうことを意識していくのかを再確認する機会にもなったのではないか。</p>
委員	<p>特別支援での視点でも、園全体としてどういう動きをしているのか知りたかったので、説明をしていただく時間があって良かった。支援の事例からは、保育者やその子単独の動きしか分からなかった。</p>
委員	<p>説明された内容が、保育参観の視点になった。最初にこの説明がなかったら、何を視点に参観すればいいのか困っていたと思うので、この時間はとても大事だった。</p>
委員長	<p>では次年度も継続していくということをお願いする。 次に、資料3のアンケートについて、視察訪問、特別支援、資料と大きく3つある。</p>
委員	<p>資料作成について、今回、自己評価の2～9は第2回提出に変更したことは良かったと考える。 ▲の内容『市内共通カリキュラムの再確認する機会になる。しかし、ある程度の年数で見直しが必要ではないか』という意見について、市共通カリキュラムは10の姿が明確に記される前の段階のものなので、見直しというところを意識されているのではと考える。一方で▲の内容『一つ一つの内容を単元化すると…』という意見については、小学校では単元だが、幼児期は単元があるわけではないので、ズレとなっている部分と考えられる。今後は、若い保育者が10の姿と保育を結びつける手立てのようなものが必要であろう。</p>
委員	<p>保育者が資料を作成することで、徐々に力を積み上がっている</p>

	<p>し、事前資料は年々分かりやすくなってきている。保育の中身を見る前にイメージしながら当日を迎えることができるので、継続してほしい気持ちと、管理職の負担から考えると、負担軽減の気持ちも両方ある。</p>
委員	<p>だんだん見やすく改善されてきているので、資料としては出してほしい。その先の負担軽減の話だが、これを機会に園内で話し合いができる雰囲気にしてもらい、一人の単独作業から、話し合い、語り合いをしながらの作成となると、気持ちの負担は減るのではないか。時間的な負担は少し増えるかもしれないが、一人でやる負担感の軽減にはなるのではないか。ただ人員の足りない園には、市としてもどんな支援ができるかということも考えていただきたい。</p>
委員	<p>資料作成する側とすればもう少し簡素にとは思いますが、訪問する側からすればこの資料はすごく大事である。やはり、参観の視点となるので、このまま引き続き作成をお願いしたい。『みんなで』考えるという進め方が、時間のない中、どこまでできるのか。</p>
委員	<p>『みんなで』というのは、意味合いとして2～3人のユニット。一人で孤独にならない、全員でやらないというのがポイントで、逆に言うと、職員会議ではなく、2～3人でわいわい言いながらできる方法をお進めしたい。</p> <p>負担感は大きいので、項目を減らす、選択制もいいかもしれない。三木市は、回数を重ねてくるうちに、必要・不必要な部分が増えてきた。焦点化して、自分たちがやりたいところを自分で選んで記入というようになってきている。最初は、全方位的にしなければならぬけれど、だんだんと選択的にするのもいいのではないか。</p>
委員	<p>特別支援の資料に関しては、市の巡回訪問と被っているという話も出てきたので、同じ園児であれば共有してはどうか。</p>
委員長	<p>今のことを踏まえ、精選できるところを検討すること、園の中で2～3人で相談、そこに主幹保育者が相談でもいいし、もう一つ付け加えるならそこに幼児教育センターが加わり引き出していくのもいいのではないか。一回引き出してもらった後で、園が記入する。そんなかわり方も、今後も可能であればと思う。</p>

委員長	(2) 今年度事業の評価方法について
事務局	事務局説明 資料4「令和4年度報告書作成の流れ(案)」 協議事項(2) 今年度事業の評価方法について説明
委員長	1点目、委員から見た園の特色を記入するという提案については、率直にいいと思う。また、それぞれの園が記入している園の特色を含め生かすのはすごくいいので、その方向性でいきたい。 2点目、安全管理以降の項目についても、園で説明された内容を資料2でまとめているので、それを活用することで園の良さが浮き彫りになるのではないかと。 園小の連携について、御意見いただきたい。
委員	残念ながら、今年度コロナ対応もあり、全園の訪問ができていない。訪問できていない園については書けないので、市全体として記入したい。
委員長	各園の記入について、事務局で何か考えておられることはあるか。
事務局	各園の報告書を両面で収めたいと考えている。保育内容について、提示している文字数、そして、各園の特色や頑張りたいところを6～7行、それに対する委員コメント3～4行ぐらいと考える。
委員長	妥当なところではないか。若干文章量が前後することはあったとしても、基本的にはこの方向でいいのではないかと。 次にスケジュールについて
事務局	事務局説明 資料4「令和4年度報告書作成の流れ(案)」 作成スケジュールについて説明
委員長	1点補足で聞きたいが、昨年度が4月で今年度は3月というのはいかがか。

事務局	毎年同じスケジュールだが、4年度は挨拶と共に報告したため、4月下旬となった。今回の報告書は、コメント記入箇所が増えているので、スケジュールの相談をさせていただいた。
委員長	提出を、休日明けにさせていただけると作業ができるのでありがたい。
事務局	提出期限、2月14日（火）でいかがか。
委員	～委員了承～
委員長	協議事項3について
事務局	事務局説明 資料5「令和5年度のスケジュール(案)」 資料6「令和5年度視察訪問希望調査(案)」
	資料5について、第1回（令和5年4月24日）委員会後に『園小架け橋研修』として、園の保育者対象の研修を委員長に依頼している。第2回（令和5年8月29日）委員会後に『園小架け橋研修』として園と小学校の先生対象にスタートカリキュラム・アプローチカリキュラムの接続期についての研修を鈴木委員に依頼している。そのため、委員会の開始時間が違うが、よろしく願います。 視察訪問について、令和5年度の訪問園と日程の確認をお願いします。特別支援学校コーディネーターの先生は、全てのこども園。校長は、2回の視察訪問の中で、全てのこども園を依頼する。 資料6について、保育内容の訪問の時間、特別支援の訪問日については、3月の保育協会園長会で資料6のアンケートを取る予定。内容は昨年度と同様、保育内容の日程、時間、開始時間、終了時間、訪問の仕方等の希望を聞き、それに沿って調整したいと思っている。そのため、特別支援学校コーディネーターの日程がわかるのが4月になる。次年度第1回の委員会までに調整をさせていただく。
委員長	希望調査の内容についても何か御意見いただければと思うがいかがか。

委員	～委員了承～
事務局	<p>保護者アンケートを今年度も実施している。次年度第1回委員会のころには集計が出るので、また検討をお願いします。</p> <p>『保育環境いいところ集』は、まだ着手できていない。西脇市全体でのツールがある方がいいという助言もいただいているので、作成に向けて着手したいと思う。</p>
委員長	ありがとうございます。それはまた確認する機会があるということか。
事務局	はい。
委員長	<p>以上で議題が終了した。みなさんの円滑な審議、御意見に感謝する。進行を事務局にお返しする。</p> <p>4 次回開催予定</p>
事務局	<p>次回の会議は、令和5年4月24日（月）午後1時から予定している。視察訪問希望調査の結果や各園からの意見を踏まえ、令和5年度就学前教育推進事業の方向などを次の会議で協議いただきたい。</p>
事務局	閉会を前に、教育創造部長足立よりご挨拶申し上げます。
足立部長	あいさつ
事務局	<p>5 閉会</p> <p>以上をもって、本日の会議を終了する。</p>